

2022 年度研究大会オンライン開催のご案内及び発表募集のお知らせ

2022 年 4 月 16 日

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会は、国内外の複数言語環境にある幼児・児童・生徒・およびその他の学習者がマルチリンガル能力を身につけられる言語教育の方法、理論、研究方法をさぐることを目的として、多様な領域の研究者・教育実践者が交流し、情報交換や発信などの活動をおこなっています。

2022 年度の研究大会は「3 言語（以上）を育てる教育を考える」をテーマにかかげ、8 月 4 日～7 日にオンラインで開催します。「3 言語（以上）の学習と習得」はこれまで「バイ」リンガル教育と総称されたため見えにくかった、3 言語（あるいはそれ以上の数の言語）が関与する場合の言語学習と教育を指します。これは本学会が研究対象とするあらゆる言語学習者の成長過程に遅かれ早かれ該当するテーマであるため、「3 言語（以上）」の言語教育という側面にスポットライトをあて、これまでの知見から教育に生かせることは何かを皆様とご一緒に考えていきたいと願っています。

大会テーマの基調講演には、バスク語、スペイン語、英語の 3 言語教育、イマージョン教育、早期英語教育、多言語教育の理論的考察など複数の言語の教育について広範囲におよぶ研究と教育現場への貢献でご高名な Jasone Cenoz 博士（University of Basque Country）をお迎えし、また大会テーマにそったパネルセッションも企画しています。そのほかには、会員による研究発表セッションを予定しています。

研究発表では、従来型の口頭発表と、昨年度にひきつづきショートプレゼンテーションを募集します。後者は参加者相互のやりとりに比重を置いた発表の場で、研究発表、実践報告、デモンストレーションなど、多様なプレゼンテーションに利用していただくことが目的です。

また、この大会の前半部には、言語教育タスクに関するワークショップ（8 月 4 日）、教育と研究に使える統計解析のワークショップ（8 月 5 日）も開催する予定です。

大会は 2020 年度、2021 年度に引き続きオンラインで実施します。MHB は世界の各地に会員を有しているので、できるだけ多くの方に参加していただけるよう工夫をする予定です。また、情報保障についてもできる限りの努力をします。

一般参加の申し込み方法は、後日ご案内します。みなさまの積極的なご参加をお待ちしています。

MHB 学会 2022 年度大会実行委員
taikai@mhb.jp

【大会概要】

開催期間：2022年8月4日（木）～8月7日（日）

開催形態：完全オンライン開催

テーマ：3言語（以上）を育てる教育を考える

【プログラム】

8月4日（木）

15:00-17:00 ワークショップⅠ [録画事前共有、日本語字幕]

作ってみよう、明日使える言語教育タスク

講師：湯川笑子（立命館大）、ファシリテータ：小川典子、佐野愛子、滑川恵理子、松尾由紀、山崎直樹、横井幸子

要旨：中学生以上の外国語・継承語学習のクラス（おおむね CEFR の A1～B2 レベルのクラス）を教える担当者を主な参加対象者とする。40分程度の講義の後で、参加者と協力してタスクを考案しそのタスクに積極的に取り組めるようにするためのスキヤフォールディング（scaffolding、援助）を一緒に考えていきたい。講師は中高の英語教員養成が専門だが、内容は他の言語に置き換えて考えることができるので、他の言語を教える担当者でも参加可能。講師はタスクについての研究者ではなく、教師教育者として、英語教員が明日の授業（や模擬授業）で使えるよりよいタスクとそのスキヤフォールディングが考案できるようになるための指導をしてきた。そのような経験を通して得たアイデアを参加者と共有したい。

8月5日（金）

10:00-17:30 【特別企画】ワークショップⅡ [情報保障については検討中]

※特別企画につき追加の参加費が必要です

ウェブ・アプリケーションを使った統計解析:入門から発展まで

講師：水本篤（関西大）

要旨：このワークショップでは、量的な手法を使って言語教育と関連分野の研究を行ってみたいと考えている人、および量的な手法を使って行われた研究を正しく理解したいと考えている人を対象に、講義と実習を交えて、基礎から応用までを学ぶ。分析に使うツールは、誰でも簡単にアクセスできるウェブ上のアプリケーションを主に用いる。ワークショップは、入門編、基礎編、発展編の3部構成であるが、参加者は任意のパートを選んで参加することができる。

8月6日（土）

9:30-12:00 パネルセッション

テーマ：**3言語（以上）を育てる教育を考える** [録画事前共有、日本語字幕、日本手話通訳]

趣旨：日本の中等および高等教育機関における第2第3言語の教育実践例より、どのような考えのもとにカリキュラムが生まれ、3言語が学習者の言語習得に如何に影響しあい、どのような教

え方をすれば、どの程度の言語能力が身につくのかを探る。また、2言語習得者に対する3言語習得者の優位性は何なのか、日本ではそれがどのような意味をもつのかについても考える。

登壇者：

- (1) 金正泰（コリア国際学園）・太田真実（朴苑眞）（大阪大学大学院博士後期課程）
- (2) 岡典栄（明晴学園）
- (3) 依田幸子（札幌国際情報高校）・横井幸子（大阪大学）
- (4) 山崎直樹（関西大学）・小川典子（愛知大学）

13:30 総会 [日本手話通訳]

14:10-15:40 会員による研究発表 I

16:00-19:30 基調講演 [録画事前共有（日本語字幕付き）＋ライブセッション（日本語への同時通訳、日本手話付き）]

The development of metalinguistic awareness through translanguaging in the acquisition of third and additional languages

Jasone Cenoz, University of the Basque Country, UPV/EHU

The positive effect of bilingualism on the acquisition of a third or additional languages is associated with the increased development of metalinguistic awareness. Learners of a third or additional language have a broader repertoire than second language learners and can use their prior knowledge when learning an additional language. In fact, multilingual speakers can apply metalinguistic strategies that they have already developed previously. The multilingual repertoire can be a rich resource in third and additional language acquisition, but learners do not use all the opportunities they have as multilingual or emergent multilingual speakers. Prior knowledge often needs to be activated so as to develop metalinguistic awareness. Pedagogical translanguaging can make learners aware of their own multilingual resources and teach them to reflect on those resources by developing metalinguistic awareness. In this presentation, the concept of metalinguistic awareness will be discussed as related to third and additional language acquisition. The focus will be on the role of pedagogical translanguaging to enhance metalinguistic awareness when learning English as a third language in primary and secondary school. Pedagogical translanguaging mobilises the students' repertoire through instruction by focusing on pedagogical strategies used to learn languages based on the learners' whole linguistic repertoire (Cenoz & Gorter, 2021). This presentation will show how activating the use of resources from the whole linguistic repertoire can stimulate the development of metalinguistic awareness and contribute to benefitting to a greater extent from the advantages associated with bilingualism in third and additional language acquisition.

Cenoz, J. & Gorter, D. (2021) *Pedagogical Translanguaging*. Cambridge: Cambridge University Press.

第三言語（以上）の習得におけるトランス・ランゲージングを通じたメタ言語意識の発達

Jasone Cenoz バスク大学 UPV/EHU

バイリンガリズムの第三言語（以上）の習得に及ぼす効果は、メタ言語意識の発達の伸長と関連している。第三言語（以上）の学習者は、第二言語学習者よりもレパートリーが広く、新たに別の言語を学習する際、既に持っている知識を用いることができる。実際、多言語話者は、それまでに既に伸ばしたメタ言語方略を応用することができる。多言語レパートリーは第三言語（以上）の習得においても豊かなリソースとなりうるにもかかわらず、学習者は多言語話者または萌芽的多言語話者として持っている機会を全て活用している訳ではない。メタ言語意識を伸ばすためには、しばしば既に持っている知識を活性化させる必要があるのである。教授的トランス・ランゲージングは、学習者に自分の多言語リソースに気づかせ、メタ言語意識を伸ばすことによって、それらのリソースについて内省することを教えることができる。本講演では、第三言語（以上）の習得に関連するメタ言語意識の概念について論じる。中でも、小中学校で英語を第三言語として学習する際、メタ言語意識を高めるための教授的トランスランゲージングの役割に注目する。教授的トランスランゲージングは、学習者の言語レ

パートリー全体を使って言語を学べるように用いられる学習方略に注目することで、授業を通して生徒のレパートリーを活性化（Cenoz & Gorter, 2021）。本講演では、言語レパートリー全体からのリソース活用することを活性化することが、どのようにメタ言語意識の発達を刺激し、第三言語（以上）習得におけるバイリンガリズムに関わる利点の恩恵をより大きく受けることに貢献するか示す。

Cenoz, J. & Gorter, D. (2021) *Pedagogical Translanguaging*. Cambridge: Cambridge University Press.

8月7日（日）

10:30-12:00 会員による研究発表 II

13:30-15:00 会員による研究発表 III

15:10-16:40 会員による研究発表 IV

【参加申し込み方法】

参加申し込みには Wix を利用しています。学会の参加登録に合わせてユーザー登録が必要です。参加申し込みは大会特設サイトからおこなっていただきますが、詳細は後日、連絡します。

※ MHB 学会員でない方のご参加も歓迎しますが、MHB2022 本大会に一般（学生）会員価格での参加を希望される方は、先に 2022 年度の MHB 学会年会費の支払いをお済ませください。（新たに入会を希望される方は「入会案内」<https://mhb.jp/admission> からお申し込みください）

※ 現在、準会員の方で、一般会員に資格を変更されたい方は、<https://mhb.jp/membership-renewal> よりお手続きをお願いします。

※ MHB 学会員の年会費と大会参加費は支払い方法が異なりますので、ご注意ください。

※ オンラインでの学会実施が順調におこなえるよう、学会側はできうる努力をいたします。しかし、ネット接続の不具合等によるトラブルがないことを保証するものではないことをご了承ください。

※ 定員に達ししだい、締めきらせていただきます。

【参加申し込みと金額】

- ・参加申し込み期間：7月ごろになる予定です。
- ・すべて事前登録が必要で、当日参加はできません。
- ・料金は次のとおりです。【特別企画】は大会参加費の他に追加料金が必要です。【特別企画】の料金のみでは参加できません。
- ・「言語教育タスク」ワークショップは追加料金不要です。

MHB2022 大会参加費	一般会員・学生会員：	3,000 円
	準会員・非会員：	4,000 円
【特別企画】（要追加料金）	統計ワークショップ：	2,000 円

- ・支払いのパターンは次の a)-d) です。

一般会員・学生会員

- a) 大会参加のみ 3,000 円
- b) 大会参加+統計ワークショップ 5,000 円

準会員・非会員

- c) 大会参加のみ 4,000 円
- d) 大会参加+統計ワークショップ 6,000 円

※ MHB 学会発行の領収書および参加証明書が必要な方は、MHB 学会 2022 年度大会実行委員までお問い合わせください。

※ お支払いの取り消しは、理由の如何に関わらず一切お受け致しかねますので、ご了承ください。

【研究発表応募要領】

1. 募集内容

- ・ MHB 学会の研究領域に関連するもので、未発表のもの。※MHB 学会の目的や対象領域は学会会則 <https://mhb.jp/kaisoku> を参照のこと。

2. 発表言語

- ・ 日本語、英語、日本手話（ただし、例示のため、他言語の単語などを含めることは可能です）。※日本手話での発表をご希望の方は発表方法について、個別にご相談ください。）"

3. 締切

- ・ ~~2022年5月31日（火）23:00（東京時間: UTC+9）必着~~

【研究発表を再募集します】

再募集の締め切り：2022年6月19日（日）23:00（東京時間: UTC+9）必着

4. 応募条件

- ・ 応募は本学会員（一般会員と学生会員）に限ります（※2022 年度年会費納付済みのこと）。筆頭発表者だけでなく共同発表者も全員学会員である必要があります。学会員登録の方法や年会費納付先については <https://mhb.jp/admission> の説明をご参照ください。
- ・ 筆頭発表者だけでなく、共同発表者の方も全員大会への参加申し込みをしてください。
- ・ 1 人の学会員が 2 件以上の発表で筆頭発表者となることはできません。
- ・ 口頭発表の時間帯を選ぶことはできません。

5. 発表カテゴリー

- (1) 口頭発表（研究発表・実践報告）

(2) ショートプレゼンテーション（研究ノート・実践報告・デモンストレーション）

6. 発表形式と時間

(1) 形式

■**口頭発表**：まとまった研究や実践報告についてまとまった内容の情報の提供が中心です。はじめの18分は、発表者がZOOM meetingを使用し参加者にむけて一方向に発表します。その後10分間の質疑応答があります。

■**ショートプレゼンテーション**：研究や実践報告あるいは教材等について、やり取りの中で議論を深めることを目的としています。はじめの8分程度で、発表者がZOOM meetingを使用し参加者にむけて一方向で発表した後、20分間の意見交換を行います。

(2) 持ち時間

口頭発表：	発表 18 分 + 質疑応答 10 分、計 28 分
ショートプレゼンテーション：	発表 8 分 + 質疑応答 20 分、計 28 分

7. 応募の手続き

・ 次の3件の文書をダウンロードしてください（インターネットに接続した状態でクリックをすると当該の文書にアクセスできます）。

(1) [2022MHB_AppForm](#)

(2) [2022MHB_guide](#)

(3) [2022MHB_template](#)

・ (1)に必要事項を記入し、(2)の指示に従い(3)を使用して応募原稿を作成し、(1)(3)を指定された方法で送付してください。

9. 採否判定の観点

■口頭発表：

(1) テーマがMHB学会にふさわしいか

(2) 研究・実践課題が母語・継承語・バイリンガル教育の実践と研究の向上に貢献するか

(3) 研究発表の場合には、研究動機、先行研究のまとめと研究の位置づけが、実践報告の場合には、その実践の意義が、それぞれ研究課題、研究方法とともに明記されていて、結果と考察が含まれているか

(4) 先行研究等と比較して、発表内容に特色、独創性、意義が認められるか

■ショートプレゼンテーション：

- (1) テーマが MHB 学会にふさわしいか
- (2) これまでの研究・実践・教材等と比較して、研究内容に特色、独創性、意義が認められるか

10. 採否連絡

- ・採否の結果は、6月20日（月）までにメールにて通知致します。

お問い合わせ：MHB 学会 2022 年度大会実行委員
taikai@mhb.jp

The 2022 ONLINE Conference of the Japanese Society
For Mother Tongue, Heritage Language,
and Bilingual Education (MHB)

August 4-7, 2022

April 16, 2022

The purpose of the Japanese Society for Mother Tongue, Inherited Language and Bilingual Education (MHB) is to explore language education methods, theories, and research methods related to how infants, children, students, and other learners in multilingual environments in Japan and abroad acquire multilingual skills.

The 2022 conference will be held online from August 4 to 7 under the theme "To Explore Education for the Development of Three or More Languages". "Three (or more) language learning and acquisition" refers to language learning and teaching when three (or more) languages are involved, a concept which has been difficult to visualize because it has been collectively referred to as "bi-lingual" education. Since this is a theme that eventually applies to the growth process of every language learner who is a subject of our research, we will particularly focus on the education of "three (or more) languages" and, together with you, we would like to explore what can be applied to education based on what we have learned so far.

The keynote speaker for the conference theme will be Dr. Jasone Cenoz (University of Basque Country), a renowned researcher and educator whose extensive research and contributions to the field of multilingual education include tri-lingual education (Basque, Spanish, and English), immersion education, early English education, and theoretical considerations in multilingual education. We will also have a panel session related to the conference theme. In addition, there will be individual presentation sessions by MHB members.

We are calling for conventional oral presentations and, continuing from last year, short presentations. The latter emphasizes interaction among participants for various presentations, and it includes presentations of research, practical reports, and demonstrations.

The first half of the conference will also include a workshop on language teaching tasks (August 4) and a workshop on statistical analysis for use in teaching and research (August 5).

The conference will be online as in 2020 and 2021. We have members in various parts of the world. We

will make the conference accessible to as many people as possible. We will also make every effort to ensure information for the deaf and hard of hearing.

We will announce how to apply for general participation later. We look forward to your active participation.

The 2022 MHB Conference Organizing Committee
taikai@mhb.jp

【Outline of the Conference】

Date: Thursday, August 4, 2022 - Sunday, August 7, 2022

How to be held: Completely online

Theme: To Explore Education to foster three (or more) languages

【Program】

Thursday, August 4

15:00-17:00 Workshop I [pre-shared recording with Japanese subtitles +live discussions]

Let's make tasks you can use tomorrow

Instructor: Emiko Yukawa (Ritsumeikan Univ.), Facilitators: Noriko Ogawa, Aiko Sano, Eriko Namekawa, Yuki Matsuo, Naoki Yamazaki, Sachiko Yokoi

Abstract: The main target participants are those who teach foreign/heritage language learning classes at the junior high school level and above (generally A1 to B2 of the CEFR). A 40-minute lecture will be followed by group discussions on how to devise a task and scaffolding (assistance) for it to help students actively engage in those tasks. The instructor specializes in English teacher training for junior and high school students. Still, the content can be applied to teaching any other language, so those in charge of teaching different languages are also welcome. The instructor is not a researcher specifically working on task-based pedagogy but rather a teacher educator who has been teaching pre-and in-service English teachers to devise better tasks and their scaffolding that can be used in classes (and mock classes). I want to share the ideas I have gained with participants through such experiences.

Friday, August 5

10:00-17:30 [Special Program] Workshop II [Interpretation and subtitles are under consideration

*An additional fee is required for this workshop.

Statistical Analysis Using Web Applications: From Introductory to Advanced Levels

Lecturer: Atsushi Mizumoto (Kansai Univ.)

Abstract: This workshop will cover basic to advanced levels, with lectures and hands-on practice, for anyone interested in using quantitative methods to conduct research in language education and related fields. This workshop is also for anyone interested in correctly understanding studies conducted using quantitative methods. The tools used for analysis will be mainly web-based applications that anyone can easily access. The workshop will consist of three parts: introductory, basic, and advanced, but participants may choose any part they wish to attend.

August 6 (Saturday)

9:30-12:00 Panel Session

Theme: **To explore education that fosters three (or more) languages** [pre-shared recording with Japanese subtitles + live discussions with Japanese sign language interpretation].

Purpose: To discuss, through examples of second and third language teaching practices in Japanese secondary and tertiary institutions, how curricula are designed, how three languages influence each other in the course of language acquisition, and what kind of teaching methods can help students acquire language proficiency, and

to what degree. The lecture will also consider the advantages of tri-linguals over bilinguals and what this means in Japan.

Speakers:

- (1) Jeongtae Kim(Korea International Academy), Mami Ota (Wonjin Park) (Doctoral Student, Graduate School of Osaka University)
- (2) Noriei Oka (Meisei Gakuen)
- (3) Sachiko Yoda (Hokkaido Sapporo International and Technological High School), Sachiko Yokoi (Osaka University)
- (4) Naoki Yamazaki (Kansai University), Noriko Ogawa (Aichi University)

13:30 General Meeting [Japanese Sign Language Interpreter]

14:00 Opening of the meeting

14:10-15:40 Individual Presentations Session I

16:00-19:30 Keynote Speech [Pre-shared recording with Japanese subtitles, Live discussion with Japanese-English interpretation, Japanese Sign Language interpretation]

The development of metalinguistic awareness through translanguaging in the acquisition of third and additional languages

Jasone Cenoz, University of the Basque Country, UPV/EHU

The positive effect of bilingualism on the acquisition of a third or additional languages is associated with the increased development of metalinguistic awareness. Learners of a third or additional language have a broader repertoire than second language learners and can use their prior knowledge when learning an additional language. In fact, multilingual speakers can apply metalinguistic strategies that they have already developed previously. The multilingual repertoire can be a rich resource in third and additional language acquisition, but learners do not use all the opportunities they have as multilingual or emergent multilingual speakers. Prior knowledge often needs to be activated so as to develop metalinguistic awareness. Pedagogical translanguaging can make learners aware of their own multilingual resources and teach them to reflect on those resources by developing metalinguistic awareness. In this presentation, the concept of metalinguistic awareness will be discussed as related to third and additional language acquisition. The focus will be on the role of pedagogical translanguaging to enhance metalinguistic awareness when learning English as a third language in primary and secondary school. Pedagogical translanguaging mobilises the students' repertoire through instruction by focusing on pedagogical strategies used to learn languages based on the learners' whole linguistic repertoire (Cenoz & Gorter, 2021). This presentation will show how activating the use of resources from the whole linguistic repertoire can stimulate the development of metalinguistic awareness and contribute to benefitting to a greater extent from the advantages associated with bilingualism in third and additional language acquisition.

Cenoz, J. & Gorter, D. (2021) *Pedagogical Translanguaging*. Cambridge: Cambridge University Press.

Sunday, August 7

10:30-12:00 Individual Presentations Session II

13:30-15:00 Individual Presentations Session III

15:10-16:40 Individual Presentations Session IV

【How to register】

Wix is used for the conference site and registration. User registration is required along with the conference registration. Registration will be made via the conference site, and details will be provided later.

※ Non-members of the MHB are also welcome to attend the conference, but those who wish to participate in the MHB2022 conference at the general (student) member price must first pay the MHB annual membership fee for the year 2022. (If you wish to become a new member, please apply for membership at "Membership Information" <https://mhb.jp/admission>)

※ If you are currently an associate member and wish to change your membership status to a general member, please contact <https://mhb.jp/membership-renewal>.

- ※ The MHB Conference Organizing Committee will make every effort to provide the best possible environment for the online conference. However, please note that we cannot guarantee that there will be no problems due to issues such as poor internet connection.
- ※ Applications to the conference will close when the number of participants reaches the maximum capacity.

【Registration and Participation Fee】

- Period: sometime in July
- Pre-registration is required for all events, and no on-site registration is permitted.
- The fees are as follows. The fee for the "Special Program" is a fee in addition to the conference registration fee. The fee for [Special Programs] alone is not enough to participate in the conference.
- No additional fee is required for the workshop for language education tasks.

MHB2022 Conference Registration Fee

General members and student members: 3,000 yen

Associate members and non-members: 4,000 yen

【Special Program】 (additional fee required) Statistics Workshop: 2,000 yen

Payment patterns are as follows: a)-d)

General members and student members

a) Conference participation only: 3,000 yen

b) Congress Participation + Statistical Workshop 5,000 yen

Associate member/non-member

c) Conference participation only 4,000 yen

d) Congress Participation + Statistical Workshop 6,000 yen

※ If you need a receipt issued by the MHB Society, please contact the MHB Society 2022 Conference Committee.

※ Please note that payment will not be returned for any reason.

【Individual Presentation applications】

- Please download the following three documents. The files can be accessed by clicking them while you are connected to the Internet.
 - (1) [2022MHB_AppForm](#)
 - (2) [2022MHB_guide](#)
 - (3) [2022MHB_template](#)
- Please fill out (1), follow the instructions in (2), prepare your application manuscript using (3), and submit (1) and (3).

Contact: The 2022 MHB Conference Organizing Committee
taikai@mhb.jp